

第 36 回世界医学検査学会(IFBLS 2026)・

第 75 回日本医学検査学会参加報告



第 36 回世界医学検査学会(IFBLS 2026)は、2026 年 9 月 23 日から 27 日まで、千葉市の幕張メッセで開催されました。日本での開催は、2016 年の神戸大会以来 10 年ぶり、通算 3 回目となります。会場には、世界 31 の国・地域から臨床検査技師、検査医、学生、教員ら約 1,000 人が参加したと報告されました。展示ホールや各会場では、国際色豊かな交流と活発な意見交換が行われました。オープニングセレモニーには愛子内親王殿下がご出席になり、ご挨拶のほか、被災地支援活動を紹介するポスター展示

をご覧になりました。当日のご様子は、各テレビ局の全国ニュースでも紹介されました。ご挨拶やニュースの中で「臨床検査技師」という言葉が繰り返し用いられたことは、多くの国民に臨床検査技師の存在を知っていただく大きな機会になったと感じました。また、9 月 26 日・27 日には、第 75 回日本医学検査学会が同時開催されました。青森県が担当した今回の学会テーマは、「今、命を未来へつなぐ」でした。本学会では、臨床検査技師が検査業務にとどまらず、救急・災害医療、地域医療、多職種連携などへと役割を広げていることを示すセッションが数多く開催されました。特に日臨技特別企画では、「救急医療に求められる臨床検査技師」「臨床検査技師による内視鏡室業務」「術中神経生理モニタリングへの参画」「看護・多職種協働加算による病棟への参画」「糖尿病治療支援への参画」などが組まれていました。AI がさらに発展していく今後、私たち臨床検査技師には、従来の業務にとらわれず、患者さんに近い現場で専門性を発揮するための新たな発想を持ち、新しい業務を開拓していくことが重要であると、改めて認識しました。

(北臨技会長 品川 雅明)

☆☆ 令和 8 年度第 1 回北海道医療・福祉関係職能団体等意見交換会に参加して ☆☆

去る 8 月 28 日(金)、北海道医師会館で第 1 回北海道医療・福祉関係職能団体等意見交換会が開催されました。北海道理学療法士会および北海道作業療法士会より、「理学療法士・作業療法士法改正について」の話題提供が行われました。約 60 年前に制定された現行法は、医療の高度化や予防領域への活動拡大など、現場の実態と乖離が生じているとのこと。そのため、国際標準に沿った 4 年制以上の養成教育への高度化や、業務内容と名称独占の再整理が必要であると説明されました。また、本年 5 月に厚労省に新設された「リハビリテーション統括調整室」の役割や、労働災害防止・産後ケア等へのリハ職の活用拡大についても共有されました。さらに、北海道特有の広域性や人材偏在といった課題に対応するため、卒後研修や業務従事者届、人材確保策の制度化が地域医療の維持に直結すると強調されました。職域拡大と資質向上の両立に向けた法整備の重要性を再確認する有意義な機会となりました。

(組織対策部長 笹木 剛志)

□■ 令和 8 年度 日臨技北日本支部臨床微生物部門研修会 終了報告 ■□

9 月 12 日(土)～13 日(日)の日程で「今日から使える!「耐性菌の読み方」実践トレーニング」と題した実習形式の研修会を開催いたしました。札幌医科大学の教育研究棟にて行い、48 名に参加をいただきました。今回は本州から京都橘大学の中村達也先生と東京医科大学の大楠清文先生をお招きし、ご講演いただきました。また実技実習においては、耐性菌の表現型の推定、確認試験の検討・実施および判定、耐性遺伝子の検出など非常に幅広い内容となりました。参加者アンケートでは、回答者全員から「満足」「ほぼ満足」との評価をいただきました。また、「薬剤耐性についてはとても難しいと感じていましたが、大変勉強になりました。実習も良かったです」「耐性菌に関する MIC の読み方を学ぶことができ、モチベーションが上がりました」など、前向きな感想も多く寄せられました。

今回ご講演いただいた先生方、ならびに企画・運営にご尽力いただいた実務委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

(北臨技微生物部門長 卸川 紘光)

○● 第 76 回日本医学検査学会開催のご案内および一般演題募集のお知らせ ●○

第 76 回日本医学検査学会が、2027 年 5 月 22 日(土)・23 日(日)の 2 日間、長崎県の出島メッセ長崎にて開催されます。今回のテーマは「開拓、そして共創へ ～地域と多職種で挑む進化 Synergy in Evolution～」です。地域医療や多職種連携のさらなる発展に向け、臨床検査の新たな可能性を共有する貴重な機会となります。現在、一般演題の募集が開始されています。募集期間は 2026 年 10 月 1 日(木)から 11 月 20 日(金)までです。発表形式は口演および示説で、演題と抄録は同時登録となり、日臨技会員は会員専用ページからお申し込みください。なお、一般演題は現地開催のみで、オンデマンド配信は予定されていません。日常業務で得られた知見や研究成果を発表し、全国の臨床検査技師と情報交換する機会として、ぜひ積極的にご応募ください。演題登録の方法や詳細については、公式ホームページをご確認ください。締め切り間際は混雑も予想されますので、余裕をもったご登録をお願いいたします。

(北臨技副会長 和田直樹)

